

## 登山と元気

第三特別調査室長

のなか しげき  
野中 茂樹

中高年者の登山人気が目撃されて久しい。休日朝の都心からの下り電車はザックを背にした乗客で混雑している。昨今は「山ガール」が話題となるほど女性の単独又は女性同士の登山者も多い。また団塊の世代がリタイアする時代になってきたためか、60歳以上と見受けられる年配者の元気な姿が目立つ。数時間身体を動かし続ける運動は登山の特徴であり、体重の減量、足腰の鍛錬等に効果的で、健康に良いとされている。

東京西部に手軽に登山できることで人気のある高尾山という標高 599mの山がある。新宿から約1時間と交通の便が良く、富士山が遠望できるほか、筑波山、スカイツリー、江ノ島までの関東平野も一望できる。

麓から頂上までは表参道コース、びわ滝コース、稲荷山コースなどの山道が整備されており、歩いても1時間半程度で到着するが、ケーブルカー、リフトで途中まで登ることができる。山頂上近くには薬王院という寺院、さる園・野草園があり、また、麓から頂上までは、そば屋、茶店等も多数ある(夏には山腹にビアガーデンが出現する)。高尾山山頂は、ケーブルカーやリフトで上がってきた人、山道を登ってきた人で混雑していることが多い。山頂から先に進み一丁平、城山、影信山、陣馬山へと続く道に入ると、登山靴、登山服、ザックを装備した登山者が多くなる。稲荷山、高尾山、更に陣馬山へ続く道は登山として楽しめると思う。このように高尾山は元々人気のある観光地だったが、ミシュランが2007年の日本旅行ガイドの中で三つ星の観光地として高尾山を取り上げたところから観光客が一段と増加した。

ところで、地元八王子市が公表している「(仮称)高尾の里拠点施設基本計画」によれば、近年は年間250万人前後の観光客が訪れ、観光客の多くは高尾山に登り、入山者の2/3は山頂まで登っている。その一方で、同基本計画中の「高尾の里の現況と課題」においては、「多くの登山者は下山後、里を回遊せずに家路を急ぐ。高尾の里の商店街は、(中略)食事や土産品の購買等をしてくれることを期待している。しかしながら、(中略)一般に登山やハイキングの観光は、土産品等の消費が少なく、高尾山も例外ではない。」と指摘している。

観光には地域の活性化の効果が期待されている。なぜなら、地域に人々が訪れ消費することにより、雇用が生まれ、地域の活性化につながるからである。高尾山は日本で一番観光客、登山者の多い山であり集客力がある。しかし集客力イコール活性化につながらないところに地域活性化の難しさを感じる。

日本各地には登山者を魅了する多くの山がある。高尾山に限らず、多くの登山者の訪問で地域、ひいては日本が元気になることを願いたい。